

# 令和5年度 亀山市立野登小学校 研究デザイン

## 教育大綱 基本方針―I

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

### 亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら  
なかまとともに主体的に学ぶために」

- (1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

#### 学校教育目標 めざす学校像

「地域とともに 仲間とともに 生き生きと活動する子の育成」  
・地域とつながり、活力あふれる学校  
・一人ひとりの子どもが生き生きと学び活動する学校

#### めざす子ども像

【仲間とともに高め合える子】  
人の話をよく聞き、思いや考えを自分の言葉で表現する子  
【すすんで学ぶ子】  
主体的に意欲をもって学ぶ子  
【自他を大切にする子】  
互いの違いを認め、自他の命・人権を大切にする子

#### めざす教師像

・「わかって楽しい授業」づくりに努める教職員  
・子どもの声や思いを大切にする教職員  
・地域や家庭と協働・連携し、信頼関係を築いていこうとする職員

#### 重点目標

- ① 地域や家庭と連携し、地域資源を活かした教育活動を充実し、安心安全な学校づくりをすすめる。
- ② 確かな学力の定着を図り、個を大切にした主体的で対話的な授業づくりをすすめる。
- ③ 互いの人権を尊重し、仲間とともにつながり合い、高め合う教育活動をすすめる。
- ④ 教職員の働きやすい環境づくり、ワーク・ライフ・バランスの確保をすすめる。

#### 野登小の特色ある取組 ～ふるさと学習～

- ☆ ののぼりの自然から学ぼう  
・里山探検 ・安楽川の生き物 ・ミツマタを使った卒業証書作り
- ☆ ののぼりの文化や歴史から学ぼう  
・古墳 ・不動院地下工場 ・宗徳寺 ・野登寺
- ☆ ののぼりの達人から学ぼう  
・ろうけつ染め ・でか書道 ・水墨画 ・お米作り ・お茶作り



## 中部中学校区研究主題

主体的な学びと対話的な活動のある授業づくり～学びをつなぎ、高め合う子の育成～

## 野登小学校研究主題

進んで表現し、高め合う子の育成 ～「主体的・対話的」な授業づくりを通して～

### 1 研究主題設定の理由

#### ① 児童の実態

本校は、明るく落ち着いて学校生活を過ごし、学校行事や学習活動に真面目に取り組むことのできる児童が多い。また、小規模校でありクラス替えもないため、友達の得意なこと・苦手なことをよく理解しており、苦手なことを受け入れたり互いに協力したりする姿がある。その一方、失敗や間違いが目立たないように周りの目を気にしながら行動したり、授業中や集会で自分の考えを発表することに消極的になったりする姿も見られる。これまで共に過ごしてきた時間が長いことから互いのことを理解し合っている反面、人間関係の固定化や決めつけた見方があることで、相手によって言葉がけや態度がきつくなることもある。

学力については、漢字の習得や叙述の読み取り、計算などの基礎的な学力が身につけている児童が多い。令和4年度の全国学力・学習状況調査では、国語が+3ポイント、算数・理科が-1ポイントと全国平均程の結果であった。その一方で、学習内容を理解できていても、自分から進んで学習に取り組もうとする意欲が低く、令和4年度の全国学力・学習状況調査の児童質問紙では、「授業が好きか」という質問に対して、否定的な回答が国・算・理全ての教科において8割を超えた。また、自分の考えを表現する力が十分でなく、言葉や図、数字等を使って自分の考えを説明することに課題がある。

#### ② 昨年度までの取り組みの成果と課題

昨年度は、研修主題を「筋道を立てて考え、伝え合い、学びを高める子の育成～主体的・対話的な授業づくりを通して～」に、研究領域を算数科に設定し、児童が論理的な思考を働かせて課題解決に向けた学びを深められるように、筋道を立てて伝え合うことに重点を置いて研修に取り組んだ。その結果、既習内容を根拠に筋道を立てて分かりやすく伝えたり、グループの中で相手の話をよく聞いて考えを深めたりする姿が見られるようになってきた。しかし、自分から進んで考えを表現することに課題があり、算数科で身に付けた力が他教科の学びへ十分につながっているとは言えない実態があった。自分の考えを進んで表現する力や友達との適切な関わりをもつためのコミュニケーション力の向上を目指して取り組みを進めていきたい。

### 2 研究主題について

「進んで表現」とは、失敗や間違いを恐れずに、自分の意志をもって自分の思いや考えを伝えることとする。そのために、ペアで説明する場面やグループで話し合う場면을大切にし、自分の考えを伝えるとともに、児童の興味関心に応じた題材を用いて授業を進めていく。

「高め合う」とは子ども同士が互いの考えや思いを伝え合い、認め合う中で、学習意欲を高めたり、互いの考えや知識を相互に関連付けてより深く理解したり、新しい考えを創造したりすることとする。

相手の考えを受け止め、自分の素直な考えを表現できるよう、学級づくりと授業づくりの両輪で進めていく。主体的・対話的な授業づくりを通して、課題について子どもたちが生き生きと意見を交わしながら、新たな見方で物事を捉えたり、互いの考えの共通点・相違点を見出したりしながら、子どもたちが自らの考えを広げ、深めていく姿を目指していきたい。

### 3 研究領域 道徳科

## 4 研究構想図

### 学校教育目標

地域とともに 仲間とともに 生き生きと活動する子の育成

### 研究主題

進んで表現し、高め合う子の育成 ～「主体的・対話的」な授業づくりを通して～

#### つけたい力

- 主体的に学習に取り組み、全体の場で進んで自分の考えを表現する力
- 互いの考えを広げたり深めたりするために、相手の考えを肯定的に受け止め、学び合う力

#### 主体的・対話的な授業づくり

主体的：見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげること

対話的：互いの多様な意見や考えをもとに学び合うことによって、自らの考えを広げ深めること

#### 道徳

- ・自己の生き方について、考えを広げ、深められる授業
- ・課題について他者と議論することで、物事を多面的・多角的に捉えることができる授業

#### 生活・総合的な学習の時間

- ・地域教材・地域人材の効果的な活用
- ・明確なねらいを持ち、子どもの学びの意欲を大切にしたカリキュラムづくり

#### ICTの活用

- ・多様な考えを表現・共有・議論する場面におけるロイロノートの有効活用
- ・遠隔授業等、他校児童との交流学习（複式校を含む）

#### 安心して表現できる学校・学級づくり

##### 特別活動の充実

- ・なかよし班活動による異学年交流の充実
- ・自治的活動（児童会、委員会）の充実
- ・学校行事における表現する場面の確保
- ・専門家や保護者、地域の方との対話の充実

##### 安心してできる学級づくり

- ・互いを認め合えるあたたかな学級集団づくり
- ・Q Uの分析による仲間づくり
- ・学習規律の徹底
- ・子ども理解と支援の充実

#### 学びの土台づくり

- ・補充学習「のびのびタイム」の実施
- ・「eライブラリ」の活用
- ・家庭学習の充実
- ・自主学習ノート
- ・本読み計算、本読み言葉
- ・学習環境の充実
- ・聞く姿勢・話す姿勢の指導の徹底
- ・読書活動の充実
- ・「マス×マス」、「よむ×よむ」

## 5 具体的な取り組み

### (1) 主体的・対話的な授業づくり

#### ① 野登小授業スタイルの実施（かめやま授業デザインスタンダードをもとに）

授業展開	内容	留意点
1 つかむ	めあての提示 （青で囲む）	・「何をどのように学ぶのか」具体的なめあてを子どもと共有し、子どもの意欲を引き出し、課題解決の見通しを持たせる。
2 考える	一人で考える	・既習事項や具体物や資料などを手掛かりに、根拠を明確にして自分の考えをまとめさせる。
3 話し合い 深める	ペア・グループ・全 員での交流	・目的を明確にし、子どもにも意識させて交流を行う。 ・板書で意見を整理し、対話が深まるよう、考えを教師がつなぐ。 ・意見の相違点・共通点にも注目させながら、話し合いを深める。
4 まとめる	めあてに正対するま とめ（赤で囲む）	・学習したことを整理し、キーワードを使ってまとめる。
5 ふりかえる	めあてに正対するふ りかえり	・自己の変容や学び方をふりかえり学習内容の定着をはかる。 ・学習の過程は適切だったかを検討し、次時の課題に活かす。

#### ② 道徳

- ・道徳的な問題を自分事として捉えさせて自己を見つめさせ、自己の生き方についての考えを深めさせる。
- ・協働的な議論を通じて、自分と異なる考えに触れ、道徳的な問題に対して多面的・多角的に考えさせる。
- ・望ましいと思われることだけでなく、ありのままの自分の考えも表現できるような手立てを工夫する。

#### ③ 総合的な学習の時間

- ・カリキュラムを見直しねらいを明確にし、地域教材の効果的な活用を図り、ふるさと学習を充実させる。
- ・総合的な学習の時間に、人権学習や平和学習を位置づけ、系統的な学習の積み上げを図る。

#### ④ ICTの活用

- ・画像や映像を教材として提示したり、デジタル教科書を活用したりして、子どもの学習意欲を高める。
- ・自分の考えをまとめたり、全体の場で表現・共有したりするときにロイロノートを有効活用する。
- ・ZOOM等を利用して遠隔授業を行い、他校児童との交流により学習の幅を広げる。

### (2) 安心して表現できる学校・学級づくり

#### ① 特別活動の充実

- ・なかよし班（縦割り班）を使った異学年交流活動によって、人間関係を広げ、自己有用感を高める。
- ・集会や行事でのふり返り発表や下校集会でのスピーチ等、子どもが全体の場で表現する機会を確保する。

#### ② 安心できる学級づくり

- ・Q Uの実施・分析から必要な取組を研修会で複数の職員で検討し、違いを認め合える学級づくりを行う。
- ・職員会議で子どもの情報を共有したり解決策を検討したりして、全職員で子ども理解・支援を行う。
- ・「学習の約束8」を基に学習規律の指導を徹底し、安心して自分の考えを表現できる学習環境をつくる。

### (3) 学びの土台づくり

- ・補充学習「のびのびタイム」を毎月設定し、前年度までの学習を中心に復習し、基礎学力の定着を図る。
- ・「eライブラリ」を活用し、個別最適化された学習に取り組むことで、基礎学力の定着を図る。
- ・家庭学習の手引きを配付したり学級懇談会で家庭学習の内容を交流したりして、家庭学習の向上を図る。
- ・本読み計算、本読み言葉を使って基礎基本の計算や漢字を繰り返し学習し、基礎学力の定着を図る。
- ・自主学ノートを的確に評価し、内容が充実したノートの掲示することで意欲的に学ぶ習慣の定着を図る。